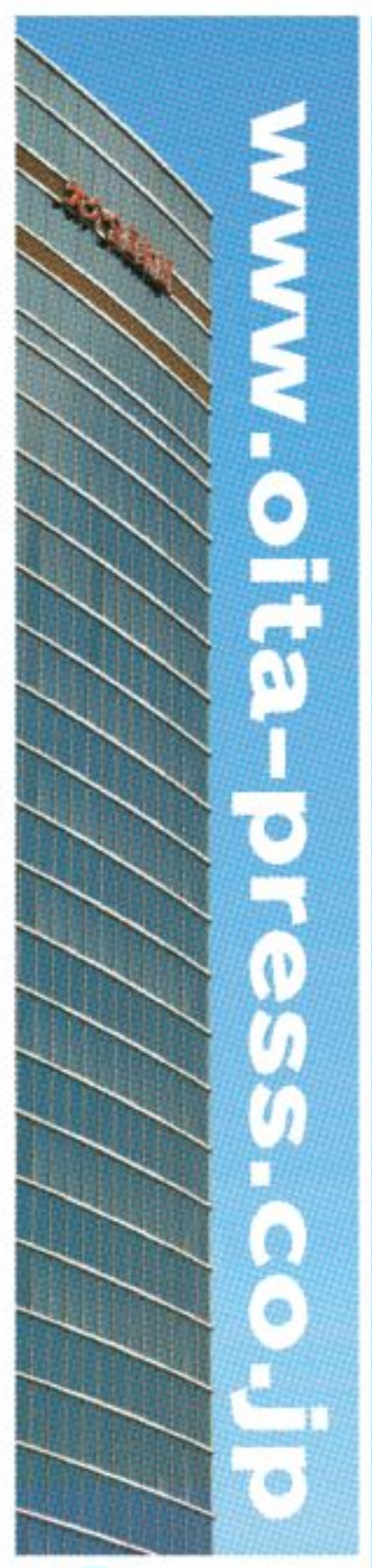
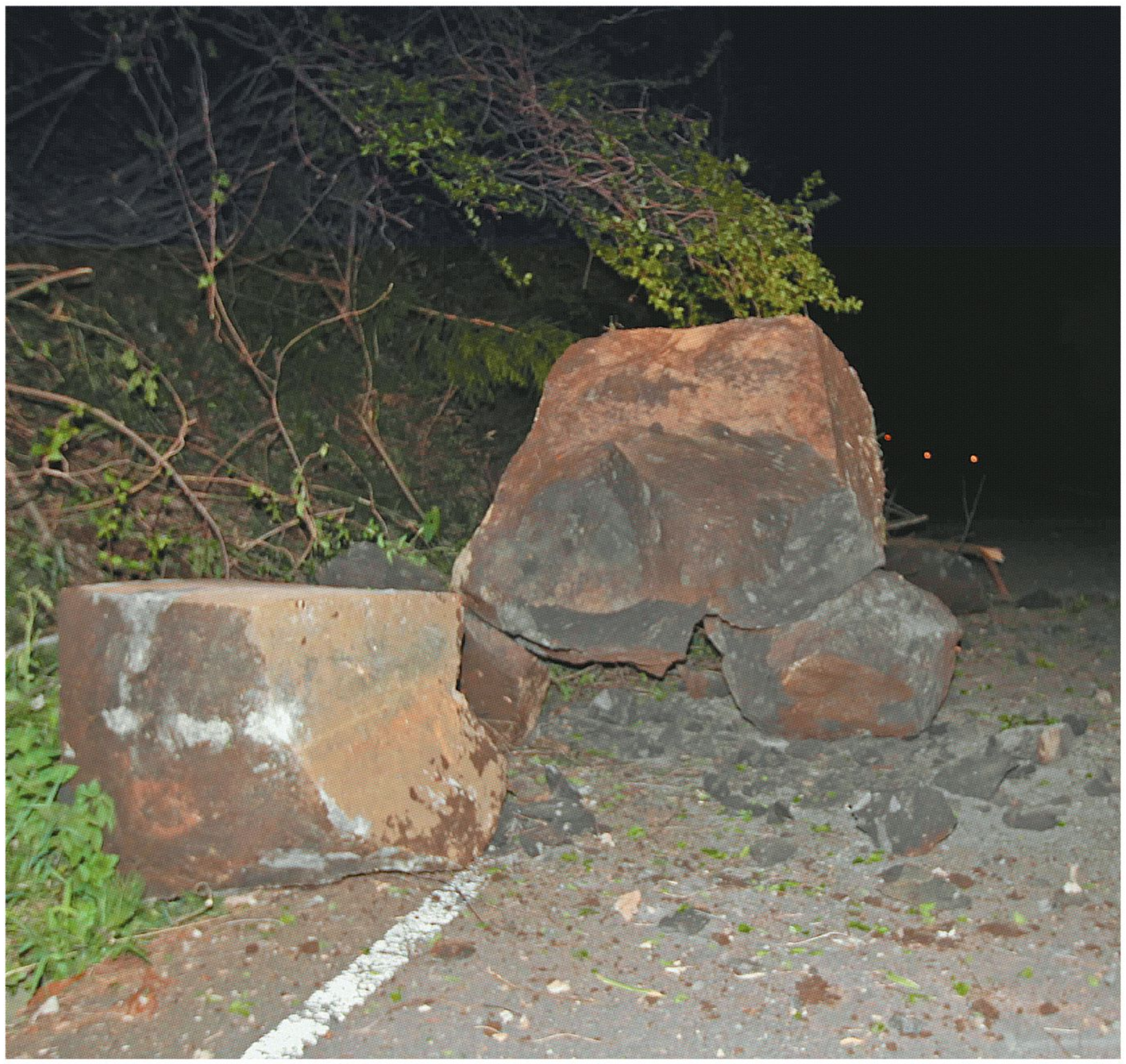


www.oita-press.co.jp
大分合同新聞
4/19 火曜日
朝刊
創刊1886年（明治19年）
大分合同新聞社
〒870−8605 大分市府内町3−9−15
© 大分合同新聞社 2016
大分 097-536-2121　別府 0977-22-2121
FAX 097-538-9674　FAX 0977-25-1230
朝夕刊　完全連続紙
単独販売の朝刊、夕刊、統合版はありません。

竹田　震度5強

各地で落石、土砂崩れ

避難者が再び増加



地震によって道路上に落ちた直径1.5㍍ほどの岩＝18日午後10時25分、竹田市川床付近の市道

18日午後8時41分ごろ、熊本県阿蘇地方を震源とする地震があり、大分県竹田市荻町や熊本県阿蘇地方で震度5強を観測した。大分県内で震度4以上の揺れが観測されたのは16日午後以来。県内ではいったん閉鎖した避難所を再び開き、避難者を受け入れる自治体もあった。竹田市によると、同市内では落石や土砂崩れが複数箇所で発生。午後11時現在、県災害対策本部にけが人や建物被害の報告はない。

大分地方気象台によると、震源の深さは約9㌔、地震の規模はマグニチュード（M）5・8と推定される。14日夜の震度7の地震以降、県内では18日午後10時50分までに震度3以上の地震が計58回起きている。震度6弱と5強が各1回、5弱が2回、4が8回、3が46回。気象台は「県内では今後も震度5弱から震度5強程度の地震が起きる恐れがある。引き続き警戒してほしい」と呼び掛けている。

県災害対策本部によると、県内の避難者数は午後3時半時点で由布、別府、竹田、大分、臼杵の5市で計247人だった。震度5強の地震発生後は、各地で避難所が再開され避難者が急増した。

各市町村の集計によると、午後11時（一部は同10時半）現在、竹田、別府、由布など12市町で計2491人が避難している。最多は竹田市の827人。別府市が752人、由布市が346人となっている。

竹田市によると、午後11時半時点で、土砂崩れや落石が起きた5路線が通行止めとなった。

愛媛県からは午後8時56分、大分県に電話連絡があった。愛媛県伊方町で震度3を観測したが、四国電力伊方原発で揺れは観測されなかったという。

県内で震度3以上を観測した主な観測地点は次の通り。

震度5強＝竹田市荻町

震度4＝豊後大野市清川町、日田市上津江町、竹田市竹田小学校、同市久住町、同市直入町、同市会々

震度3＝大分市長浜、同市野津原、別府市鶴見、同市上野口町、臼杵市臼杵、由布市挾間町、同市湯布院町川上、津久見市宮本町、佐伯市春日町、同市鶴見、同市上浦、豊後大野市三重町、同市緒方町、同市朝地町、同市大野町、同市千歳町、同市犬飼町犬飼、日田市中津江村合瀬、同市三本松、同市天瀬町、同市前津江町、同市田島、同市中津江村栃野、同市大山町、竹田市直入小学校、九重町後野上

震度1以上 550回超

熊本、大分両県を中心に相次いでいる地震で、気象庁は18日、震源域となっている両県の3地域では「依然として活発な地震活動が続いている。レアケースで先が見通せない。発生ペースは下がっているように見えるが、いつまた大きな地震があるか分からない」との見解を示した。気象庁は、少なくとも1週間は震度6弱程度の揺れが起きる恐れがあるとして警戒を求めた。14日以降、震度1以上の地震は550回を超えた。

エコノミー症候群3人重体

72時間経過

犠牲者44人に

熊本、大分両県を中心に相次ぐ地震で、避難のため「車中泊」をしていた50～60代の女性3人が済生会熊本病院（熊本市）でエコノミークラス症候群と診断され、意識不明の重体となったことが18日、分かった。

済生会熊本病院によると、意識不明の3人のうち、60代の2人は搬送時に心肺停止状態だった。このほか6人が同症候群と診断され、別の1人もその疑いがある。相次ぐ余震と避難生活の長期化が住民の身体、精神両面のストレスを高め、健康悪化を引き起こしているとみられる。

一連の地震で多数の家屋が倒壊するなど被害が甚大だった熊本県南阿蘇村の土砂崩れ現場では、新たに男女2人の死亡が確認された。男性は香川県東かがわ市馬篠の鳥居敬規さん(42)で、女性の身元は不明。14日以降の地震による死者は計44人となった。

19日未明には、16日のマグニチュード(M)7・3の本震発生から生存率が著しく下がるとされる72時間が経過。捜索は難航している。

熊本、大分両県によると、避難者数は約9万4千人。警察庁によると、けが人は熊本のほか、福岡、佐賀、大分、宮崎の各県で計1101人となった。阿蘇市の避難所では市内の女性(77)が17日、急性心不全で死亡。初の震災関連死とみられるケースが確認された。熊本県によると、南阿蘇村で安否不明となっているのは8人。身元不明の女性が含まれるかどうか確認を急ぐ。

亡くなった方

熊本県などの地震で亡くなり、新たに身元が判明した方は次の通り。（熊本県の発表による）

【香川県東かがわ市】

鳥居敬規さん(42)

教えて！ぶんぶん

【大分学】

山頭火②

4度目の中津は別の所に泊まったのはなぜ？

どのページかな

こたえを探してね

県内の避難者数

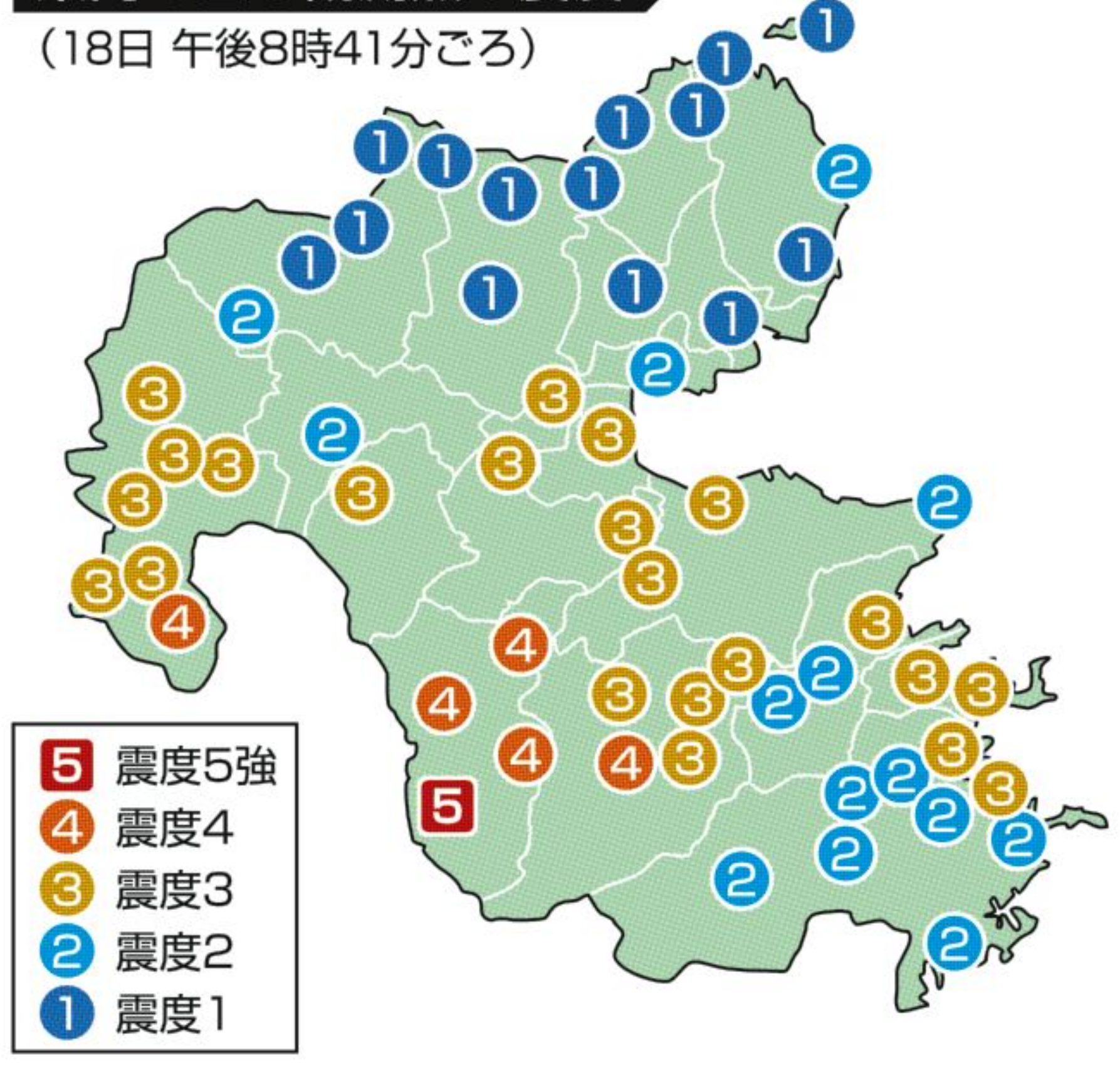
（午後10時半集計）

	避難者数（人）
大分市	56
別府市	752
日田市	214
佐伯市	9
臼杵市	15
竹田市	827
杵築市	21
豊後大野市	109
由布市	346
日出町	4
九重町	72
玖珠町	66
合計	2491

※竹田、由布両市は午後11時集計

県内の主な観測点の震度

（18日 午後8時41分ごろ）



東西南北

2016.4.19

16、17両日は土・日曜だった。由布市湯布院町は、本来であれば、にぎわいを見せたであろう。それが一転した。まちなかは閑散とし、滞在していた観光客らは足止めされた。名だたる観光地だが、韓国から訪れていた男性の「またいつか来たいが、今はとてもそんな気になれない」との言葉がつらい▼県内では由布、別府両市を中心に多くの人が避難所生活を余儀なくされた。避難所の人も自宅に戻った人も、いつ大きな余震が起きるか不安を抱えながら過ごしている。肉体も精神も疲労が蓄積しているだろう。熊本県阿蘇市では避難所で高齢の女性が亡くなった。震災関連死とみられる。対策が急がれる▼大きな災害が起きるたびに痛感するのは、人間がつくった文明のもろさである。水が出なくなる。電気やガスが止まる。電話がつながらなくなる。道路や線路が寸断される。供給ルートが確保できず、スーパーやコンビニが品薄になる。正常に作動して当たり前と思っているライフラインがひとたまりもない。自然の脅威の前には、極言すれば文明は無力なのだ▼だからといって諦めてしまっては、文明の発展はないだろう。自然災害を正しく恐れ、被害の教訓を生かして防災対策を進めなければならない。それもまた、文明の役割である▼物理的な強靱化とともに、人間同士の絆の強靱化も大切だ。災害発生時、隣近所の助け合いで命が救われたケースは多い。共助の精神である。強い絆は地域の人々の、日頃の付き合いから生まれる。

整形外科・外科・泌尿器科・内科・糖尿病内科
消化器内科・消化器外科・呼吸器内科・循環器内科
肛門外科・皮膚科・形成外科・リハビリテーション科
〈救急・労災・更生医療指定〉
中村病院
日本医療機能評価機構認定病院
☎(0977)23-3121
別府市秋葉町8―24

地震特別紙面

❷川内原発は稼働継続
❸オスプレイ支援参加
❹震災復旧へ補正検討
❺余波広がる県内企業
⓯日田で国道通行止め
⓳「安否確認法知って」
⓴奪われた田園の風景
㉑捜索隊員ら募る焦り
㉒県が住宅応急調査へ
㉓続く激震帰宅できず

地震のため特別紙面にします。

HPで紙面公開

熊本、大分両県で強い地震が相次ぎ、被害が広がっています。朝刊紙面の一部を本社ホームページ・Gate（http://www.oita-press.co.jp）で公開していますのでご覧ください。

大分合同新聞社

ピープル

⓮渡辺さん

⓱平塚さん

⓱薬師寺さん

大分県の天気

	午前	午後	夜	降水確率	気温
中部	☀	☀	★	0%	10~22°
南部	☀	☀	★	0%	8~22°
北部	☀	☀	★	0%	10~19°
西部	☀	☀	★	0%	6~22°

（各地の詳しい天気は3面に）

ABC部数は
読者が見える数字です。
当紙の部数はABCが確認しています。
一般社団法人 日本ABC協会
http://www.jabc.or.jp

一流講師を招き、ホットな情報を提供
大分政経懇話会
会員募集中
お問い合わせ
大分合同新聞社内 ☎(097)538-9646

◇新聞の購読・配達お申し込み 0120-510-374（平日9～18時）◇ご意見 097-536-2121（平日9～17時）、Eメール info@oita-press.co.jp